

ASEAN重視を強める米国

米国の ASEAN 重視が鮮明となつてい
る。米国は、ブッシュ政権は九、一、一テロ
後のアフガニスタン攻撃そして二〇〇三年
のイラク攻撃以降、アフガニスタンとイラ
クの戦争に軍事外交資源を投入してきた。
その間、特に ASEAN には冷淡あるいは
無関心といわれる対応をとった。その象徴
的な出来事は、二〇〇七年九月にシンガポ
ールで予定されていた米国 ASEAN 首脳会
議のブッシュ大統領による延期決定である。
二〇〇七年は ASEAN 創設四〇周年、A
SEAN 米国対話三〇周年の記念すべき年
だっただけに、ASEAN 側の失望は大き
かった。

同じ時期に顕著となったのが中国の台頭
と南進である。中国は経済面で急速に台頭
し、二〇一〇年には GDP で日本を凌駕し
た。ASEAN 諸国との政治経済関係の深
化も急激に進み、多くの国で最大の貿易相
手国となり、特に

CLM 諸国では投
資、援助で大きな存
在感を示している。
海軍力を中心に軍
事面での強化も著
しく、二〇一〇年
頃から南シナ海を
核心的利益を有す



アジアの窓

る地域とするなどあからさまに国益の主張
を行うようになった。

米国内では、米国は ASEAN に関心を
失っていると ASEAN 側が認識し中国の
影響力が増すとの懸念を有識者が持ち、A
SEAN 軽視を批判する見解が発表され
ていた。米国の姿勢に変化が現れたのは
ブッシュ政権の末期である。その一つが
二〇〇八年四月のスコット・マルシエル
ASEAN 大使任命である。二〇〇八年の T
PP 交渉参加も ASEAN を含めた東アジ
ア重視の一環としてみるべきであろう。

ASEAN を中心とする ASEAN 重視
はオバマ政権に引き継がれ、オバマ大統領
は二〇〇九年十一月、二〇一〇年九月に A
SEAN との首脳会議を開催した。米国は
二〇〇九年七月に東南アジア友好協力条約
(TAC) に署名し、東アジアサミット参加
の資格を得た。ASEAN からみれば、米
国の ASEAN 重視による勢力均衡は望ま
しいシナリオである。ASEAN は中国と
FTA を締結するとともに、うち四カ国は
TPP 交渉にも参加している。ASEAN
が東アジアの地域協力と経済連携の中核と
なっている。中国の存在感が強まっていた
東アジアでは、米国の ASEAN 重視によ
り、米中に ASEAN、日本、インド、豪州、
ロシアがプレイヤーとして安全保障、地域
協力、経済連携面での枠組み作りとせめぎ
あいが進むであろう。

(石川幸一 アジア研究所教授)

✿ 研究所だより ✿

二〇一一年は、二月のニュージーランド大地震、
三月の東日本大震災と原発事故、十月のバンコク
大水害、十一月以降の欧州国家債務危機と想像を
超える危機的な事態が続きました。天災といえる
のは二つの大地震であり、バンコク大水害は人災
の要因が否定できず、原発事故と欧州危機はまさ
に人災であり、リスク管理の重要性を再認識させ
ました。二〇一二年は、米国、ロシア、韓国の大
統領選挙、中国の指導部の交代など政治の年にな
ります。アジアの変化を追って行きたいと考えて
いますので引き続きご支援をお願いいたします。

「最近行われた研究プロジェクトの研究会」

一、石川幸一代表プロジェクト

十二月三日(土) 開催

「最近の世界の貿易投資動向について」

講師：安田啓氏(日本貿易振興機構国際経済研究課)

二、小林照直代表プロジェクト

十二月八日(木) 開催

「モンゴルの環境事情」

講師：大江宏亜細亜大学経営学部教授

三、野副伸一代表プロジェクト

十二月十四日(水) 開催

「金融危機後の国際政治の構造変化(続)」

講師：友田錫氏(アジア研究所嘱託研究員)